

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称	: 苛性カリ
供給者の会社名	: 深江商事株式会社
住所	: 大阪市東成区深江北3丁目13番21号
電話番号	: 06-6971-3117
FAX 番号	: 06-6971-1807
推奨用途	: 各種カリ塩類の製造、鉱山安全灯用、軟石けん、医薬品（防腐剤）、漂白剤、炭酸ガス吸収剤、染料（インジゴ製造）、石油化学、シュウ酸、ジメチルテレフタル酸の原料（合繊用）、鉱山精錬、化粧品原料、食品製造用（アルカリ剤及び中和剤）
使用上の制限	: 試験研究・工業以外の用途では使用しないこと

2. 危険有害性情報の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

全ての項目は、GHS 分類基準に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	: 区分4
皮膚腐食性／刺激性	: 区分1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分1
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 区分1（呼吸器）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: 区分1（呼吸器）
誤えん有害性	: 区分1

その他の項目は、GHS 分類基準に該当しない

環境に対する有害性

全ての項目は、GHS 分類基準に該当しない

GHS ラベル要素

絵表示 :



- 注意喚起語 : 危険
- 危険有害性情報 : P302 - 飲み込むと有害
P304 - 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
P314 - 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
P318 - 重篤な眼の損傷
P370 - 臓器の障害 (呼吸器)
- 注意書き
- 安全対策 : P260 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 - 取扱い後は手をよく洗うこと。
P270 - この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
P280 - 保護手袋/保護眼鏡/保護衣/保護面を着用すること。
- 応急措置 : P301 + P330 + P331 - 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P301 + P310 - 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
P303 + P361 + P353 - 皮膚 (又は髪) に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水/シャワーで洗うこと。
P304 + P340 - 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305 + P351 + P338 - 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P310 - 直ちに医師に連絡すること。
P363 - 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- 保管 : P405 - 施錠して保管すること。
- 廃棄 : P501 - 内容物及び容器は、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
- 他の危険有害性 : 接触すると、皮膚及び眼は重症の深部に達するただれを起こす。誤って飲み込んだ場合、消化管の広範囲の組織を破壊し、激痛、嘔吐、声門浮腫、ショックなどの症状があわわれる。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 混合物
- 化学名又は一般名 : 水酸化カリウム
- 別名 : 苛性カリ

化学名	濃度又は 濃度範囲(%)	化学式	CAS 番号	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法

水酸化カリウム	≧48	KOH	1310-58-3	(1)-369	公表
水	残余	H ₂ O	7732-18-5	対象外	公表

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
体を毛布等でおおい、保温して安静を保つ。
呼吸が弱い場合やチアノーゼが認められた場合は酸素吸入を行う。
直ぐには何も症状が認められなくても、必ず医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ、または取り除く。
皮膚を石鹸と多量の流水またはシャワーで洗う。
外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は速やかに医師の診断を受ける。
洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると皮膚の障害を生ずる恐れがある。
- 眼に入った場合 : 水で15分間注意深く洗う。その際、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球・まぶたの隅々まで水が行き渡る様に洗浄する。
洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると眼の障害を生じる恐れがある。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中をよくすすぐ。
吐かせると却って危険を増す。無理に吐かせてはならない。
意識が無い場合は、口から何も与えてはならない。
直ちに医師に連絡する。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 眼、皮膚の障害。
呼吸器障害に肺機能低下、呼吸困難。
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : 二次汚染防止のため、化学防護手袋などを着用して応急処置をする。
- 医師に対する特別な注意事項 : 本製品のミスト・蒸気・スプレーを吸入したおそれがある場合は、症状がなくても、被ばく後24時間は経過を観察する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : この製品は不燃性である。
周辺火災の場合はあらゆる消火剤の使用が可能である。
- 使ってはならない消火剤 : なし。
- 火災時の特有の危険有害性 : データなし。

- 特有の消火方法 : 消火作業は可能な限り風上から行う。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
容器周辺が火災の場合は、容器に外部から放水して冷却する。
消火するための放水により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう、適切な処置をする。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 空気呼吸器、化学用保護具、保護衣、ゴム長靴

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際は、飛沫等が皮膚に触れないように、また、有害なガスを吸入しないように、適切な保護具を着用する。
風下にいる人を退避させ、風上から作業する。
漏出した場所の周囲にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項
封じ込め及び浄化の方法／機材 : 流出した製品の河川、排水路、下水溝などへの流入を防止する。
: 可能であれば、漏出源を遮断し、漏れをとめる。
少量の場合、おがくず、ウエスなどに吸収させて、密閉できる空容器に回収する。
大量の場合、盛り土や土嚢で囲って流出を防ぎ、防爆型ポンプなどで密閉できる空容器に回収する。
残留物は希酸（酢酸が望ましい）で注意深く中和した後、大量の水で洗い流す。
密閉できる空容器に回収し、適切に廃棄処理する。
- 二次災害の防止策 : 屋内の場合、気中濃度が危険な濃度に達しないよう、適切に喚起する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
- 安全取扱い注意事項 : 屋外で取扱う場合は、できるだけ風上から作業する。
あらゆる接触を避ける。
着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に、また発散した蒸気・ミストを吸い込まない様に適切な保護具を着用する。
取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 接触回避 : 酸性物質との接触を避け、容器は密閉して冷暗所に保管する。

衛生対策	:	ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。 腐食性があるため、眼、皮膚への接触を避ける。 屋外または換気の良い場所でのみ使用する。 この製品を使用する時に、飲食及び喫煙をしない。 取扱い後は顔や手をよく洗う。
保管		
安全な保管条件	:	冷暗所
安全な容器包装材料	:	耐アルカリ性密閉容器

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	:	未設定
許容濃度	:	日本産業衛生学会(2008) 最大許容濃度 2mg/m ³ ACGIH(2008) TLV-Ceiling 2mg/m ³
設備対策	:	取扱い場所の近くに、洗身シャワー、洗眼設備、手洗いを設ける。
保護具		
呼吸用保護具	:	空気式呼吸器
手の保護具	:	保護手袋（ゴム手袋等）
眼、顔面の保護具	:	顔面シールド又は保護メガネ
皮膚及び身体の保護具	:	保護衣（化学用保護衣等）
特別な注意事項	:	

9. 物理的及び化学的性質

外観	:	無色透明の液体
臭い	:	なし
融点／凝固点	:	データなし
沸点、初留点及び 沸騰範囲	:	140°C（48%苛性カリ水溶液、760mmHg）
可燃性	:	データなし
爆発下限界及び爆発上 限界／可燃限界	:	データなし
引火点	:	燃焼性なし
自然発火点	:	爆発性なし
分解温度	:	データなし
pH	:	強塩基性
動粘性率	:	データなし
溶解度	:	

水	: 1,100g/L (25°C) (KOHの水への溶解性)
n-オクタノール／水 分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: 1.4907g/cm ³ (48%苛性カリ)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 常温では安定。
化学的安定性	: データなし。
危険有害反応可能性	: 酸と接触により発熱する。
避けるべき条件	: この物質に水を注いではならない。(激しく発熱する。)
混触危険物質	: 二酸化塩素 爆発の可能性 アクロレイン 非常に激しい重合反応の危険性 ニトロ化合物 衝撃に極めて敏感となる危険性 アルミニウム、チタン、亜鉛、スズなどの金属を腐食して水素ガスを発生し、これが空気と混合して引火爆発することがある。
危険有害な分解生成物	: 乾固すると劇物の水酸化カリウムとなる。 固体水酸化カリウムは亜鉛、アルミニウム、クロム等金属と混触すると可燃性ガス(水素)を発生する。 固体水酸化カリウムは強熱により酸化カリウムと水素を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: ラットのLD50として、273mg/kg、365mg/kgとの報告がある。
経皮	: データなし
吸入(蒸気)	: データなし
皮膚腐食性／刺激性	: 固体の本物質は腐食性を示すとの記載がある。ヒトの皮膚へのばく露で、Ⅲ度の薬傷を生じた事例や電池の電解液(本物質25%含有)により小穿孔を伴う組織の腐食がみられた事例がある。 ウサギを用いた複数の皮膚刺激性試験で腐食性を示すとの記載がある。又、本物質の水溶液のpHは約13で、強アルカリを示すとの記載がある。
眼に対する重篤な損傷／	: 皮膚腐食性／刺激性が区分1に分類されている。本物質は2.0%以上

- 刺激性 の濃度で眼に対して腐食性を示すとの記載があり、ウサギを用いた眼刺激性試験で強い腐食性との記載がある。又、本物質の水容器の pH は 13 で、強アルカリ性を示すとの記載がある。
- 呼吸器感作性 : データなし
- 皮膚感作性 : モルモットを用いた皮膚感作性試験で陰性との記載や、カリウムイオン (K+) 及び水酸化物イオン (OH-) は生体内に元から存在するので皮膚感作性の原因とは考えにくいとの記載があるが、試験の詳細が不明でありヒトにおける報告もないため、分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : 本物質に関する in vivo データはなく、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である。本物質、水酸化ナトリウム、塩化カリウム、炭酸カリウムの包括的な情報から変異原性について評価している。すなわち、水酸化ナトリウムは in vivo において、マウス骨髄細胞の小核試験、マウス卵母細胞の染色体異常試験で陰性の結果があり、in vitro では被験物質の培地における高い pH や浸透圧の artifacts による影響を除けば、水酸化ナトリウム、塩化カリウム、炭酸カリウムは細菌の復帰突然変異試験で、塩化カリウムは哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験で、炭酸カリウムは哺乳類培養細胞の染色体異常試験で、いずれも陰性である。以上より、これらの物質には遺伝毒性がないと考えられるとの見解を示している。
- 発がん性 : マウスの皮膚に本物質の 3~6%水溶液を 25~46 週間適用した結果、適用部位局所に腫瘍（発生率：約 15%）がみられた。この皮膚腫瘍は重度の皮膚損傷の結果生じた間接的な細胞増殖によるもので、反復刺激及び持続性炎症がもたらした二次的な非遺伝毒性機序によると考えられている。また、ヒトに外挿可能なばく露条件下で、本物質が発がん性があるという証拠はないと結論されているが、信頼性のある試験データはなく、国際機関による分類結果もない。したがって、データ不足のため分類できない。
- 生殖毒性 : データなし
- 特定標的臓器毒性
（単回ばく露） : 本物質は皮膚、粘膜に対して強アルカリとして作用して、粉じん又はミストの吸入ばく露により上気道の刺激及び組織障害を起こし、鼻中隔の障害や肺水腫を生じる可能性もあると記載されている。
- 特定標的臓器毒性
（反復ばく露） : ヒトについては、本物質の粉じん、ミストの吸入によって起こる障害は、主に上部気道の炎症であり、慢性的な作用によって鼻中隔に潰瘍を生じることが注意されている。ただし、気中濃度と障害発生に関する調査・研究の報告はない。粉じんあるいはミストのばく露によって、おそらく眼及び気道の刺激、鼻中隔の病変を生じる。以上のように十分な情報はないが、本物質は、アルカリ性物質であり吸入により

- 誤えん有害性
- 呼吸器に炎症性の影響を起こすことは明白である。
- ： 本物質を非意図的又は自殺目的で経口摂取した死亡例で、死因の一部に食道から気管への誤えん、肺炎などがあるとの記述、及びアルカリの気道への誤えんは喉頭、気管・気管支、肺に致命的な傷害を生じる。

1 2. 環境影響情報

- 生態毒性
- 水生環境有害性 (短期／急性) : データなし
- 水生環境有害性 (長期／慢性) : データなし
- 残留性／分解性 : 残留性なし
- 生体蓄積性 : 生体蓄積性はなし
- 土壤中の移動性 : 環境中に放出された場合、大部分が水系に移動する。
- オゾン層への有害性 : 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
- 他の有害影響 :

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物
- ： 廃棄する際は、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。
 廃棄処理する場合は、水を加えて希薄な溶液とし、酸（希塩酸、希硫酸など）で中和した後、多量の水で希釈して処理する。
 白濁している場合も同様に希酸で中和した後、多量の水で希釈して処理する。白濁物は空気中の炭酸ガスと反応して生成した炭酸カリウムである可能性が高い。この白濁物は希酸で中和する際に溶解する。
 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに処理を委託する。
 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知する。
- 汚染容器及び包装
- ： 容器は十分な水で洗浄してからリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。白い晶出物は炭酸カリウムか固形水酸化カリウムである可能性が高い。希酸で中和して残余廃棄物として捨てた後、包装材料を十分な水で洗浄する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

国連番号 : 1814
 品名 : Potassium Hydroxide Solution
 国連分類 : Class8 Corrosive
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 非該当
 MARPOL73/78 : 該当 (Y 類)
 附属書 II 及び IBC
 コードによるばら積み
 輸送される液体物質

航空規制情報

国連番号 : 1814
 品名 : Potassium Hydroxide Solution
 国連分類 : Class8 Corrosive
 容器等級 : II

国内規制

陸上規制情報 : 毒劇物取締法 劇物

海上規制情報

国連番号 : 1814
 品名 : 水酸化カリウム (水溶液)
 国連分類 : クラス 8 腐食性物質
 容器等級 : II
 海洋汚染物質 : 非該当

航空規制情報

国連番号 : 1814
 品名 : 水酸化カリウム (水溶液)
 国連分類 : クラス 8 腐食性物質
 容器等級 : II

特別な安全上の対策 : 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどのないことを確かめる。
 転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。
 直射日光を避けて輸送する。
 車両による運搬時は、運転者に必ずイエローカードを携行させる。

緊急時応急措置指針番号 : 154

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 腐食性液体 (労働安全衛生規則第 326 条)

名称を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条）

名称を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2）

化学物質の危険性又は有害性の調査すべき物質（リスクアセスメントの実施等）（法第 57 条の 3）に該当する。（政令第 18 条の 2 別表第 9 の 316）

労働基準法	:	疾病化学物質
化審法	:	一般化学物質
化学物質排出把握管理促進法（P R T R 法）	:	非該当
毒物及び劇物取締法	:	劇物（指定令第 2 条）
消防法	:	非該当
高圧ガス保安法	:	非該当
船舶安全法	:	腐食性物質（危規則第 3 条危険物告示別表第 1）
港則法	:	腐食性物質
航空法	:	腐食性物質（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）
道路法	:	車両の通行の制限（施行令第 19 条の 13、日本道路公団告示）
海洋汚染防止法	:	有害液体物質（Y 類物質）（施行令別表第 1）

16. その他の情報

この安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS 中の注意事項は通常の実施を対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。また、当社は SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。